



課題研究の成果をブース展示する駒ヶ根工業高校の3年生

## 課題研究の成果 展示やステージで

駒ヶ根工業高校（駒ヶ根市）は17日、機械、電気、情報技術科の3年生が1年間の学習成果を公開する「全校課題研究発表会」を同校体育館で開いた。レーシングカートやイルミネーション、ミニコンボ製作など計34テーマごとの成果をブース展示し、1、2年生や保護者、地元企業、大学関係者らに披露した。

## 駒工3年生が発表会

今年度は3年生116人が個人やグループに分かれ、それぞれの課題研究に取り組んできた。発表会は展示のほかに、各科を代表する7グループがステージに立って成果を披露。オーストラリアでの宇宙科学研修と人工衛星の製作、災害救助用ドローンの製作、全方向移動型の自律掃除ロボットの製作などに関する課題研究について説明した。

このうち、電気科の原翔希さん、堀江大晴さん、前沢秀幸さん、下島遼平さんは超音波を使った距離計の製作に取り組んだ。4人は釣りが趣味で、「陸から使える魚群探知機が欲しい」との発想で取り組み始めた経緯を紹介。超音波距離計を自分たちで設計して製作し、空気中と水中での測定実験の結果を説明した。

空気中での実験は成功し、最大3・1メートルまでの距離は測定することができたが、水中では「疎密波が微弱で拡散してしまい、限られた空間でしか測定できなかった」と考察。メンバーは「今回は完璧な魚群探知機を製作することはできなかったが、いつか駒工生の手で完成してほしい」と話していた。（布袋宏之）